

## 平成26年1月 定例委員会々議録

1 日 時 平成26年1月22日(水) 午後1時30分～

2 開催場所 会議室102

3 出席委員の氏名

委員長	齋藤和夫	委員長職務代理者	黒川優子
委員	山崎克弥	委員	中野信男
委員	秦久美子	教育長	上原洋一

4 欠席委員の氏名 なし

5 説明のため出席した職員

教育次長	齋藤純郎	教育次長	金子彰男
主幹	村山幸一	学校教育課長	山田公一
子育て支援課長	伊藤謙治	生涯学習課長	服部雅之
スポーツ推進課長	樋口太弥人	指導主事	小林靖直

6 本委員会書記

学校教育課主事 星野明日香

7 傍聴人

三條新聞社

8 会議に付議した事件

諸報告

- (1) 行事報告及び行事予定
- (2) 教育長報告
- (3) 共催・後援の教育長専決報告

協議題

- (1) 燕市子ども夢づくり支援事業について
- (2) 新規後援申請

議 案

議案第 1 号 燕市地域に根ざす学校応援団事業地域コーディネーターの委嘱について

そ の 他

平成 25 年度 卒業式教育委員会出席について

会議録 別紙のとおり

1. 開 会 宣 言 午後1時30分

2. 会議録署名委員の指名 秦 久美子 委 員

3. 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定について

《各課長が報告》

○委員（黒川 優子）

15日開催された学校教育研修成果等報告会で、小池中の長善タイムの話をお聞かせいただいた。学校間で情報の共有がされているとは思いますが、中学校同士での長善タイムの横のつながりができているかどうか確認させて欲しい。

○統括指導主事（小林 靖直）

小池中のような取り組みは、他の中学校ではまだまだこれからであるが、小池中の長善タイム時に、他の学校の先生方から、今年度後半より、紙面だけではなく実際に見学いただいている。その後、各学校でも小池中方式をできるところから取り組んでいる。先日、燕北中学校を訪問した際、小池中方式に近い取り組みを行っていたが、中身について生徒が慣れていないので小池中のようになるには、もう少し時間がかかと思われる。全中学校一斉に共有できるよう、今後、努めていきたい。

○委員（黒川 優子）

きちんとされた先生が多いと思うので、自分でやり通すというのが障害にならないかと思った。すぐに結果を出すのは無理かと思われるが、小池中の取り組みを学校間で共有されていることはありがたいことである。

○委員（秦 久美子）

小池中の長善タイムが素晴らしいというのを全中学校に広げて行って欲しい。あの取り組みが全中学校に広がれば、学力向上間違いなしと思う。ICT等も活用すれば子どもたちの学力は伸びると、報告会で強く感じた。

○委員長（齋藤 和夫）

報告会で感じたのは、燕市において学校教育について一生懸命な取り組みが始まったという印象を受けた。

中学校については、私たちが視察した所も含めて考えてみると、全校体制だけで行うのではなくて、小学校が行っているような取り組みを生かしていくことも必要なのではない

だろうか。具体的に私たちが視察で見た理科の授業では、授業の始めに先生が工夫して作成した脳トレを短い時間で生徒が取り組んでいた。燕の中学校も全校体制で取り組む小池中の長善タイムだけでなく、教科の先生方が自分たちのできる範囲で、もう少し小学校の脳トレの主旨を生かした取り組みをできるのではないかと考えられるので、各中学校で工夫していただくようお願いしていただきたい。そのようにすれば、もっともって学力が上がってくるのではないかと感じた。

#### ○委員（山崎 克弥）

機会があれば、長善タイムを学校へ行って見せていただきたい。

### (2) 教育長報告

〈上原洋一教育長が報告〉

#### ● 入試の季節

- 1月19日(日)に燕中等教育学校の合格発表があり、定員80人に対して受検した児童は120(116)人、うち燕市内からは49(74)人が受験し、燕市内からの合格者は36(57)人。
- 中学3年生の多くは1月21日(火)22日(水)に私立高校の入試を受け、受験シーズンが開幕した。21日(火)には長岡工業専門学校の推薦入試もあった。2月12日(火)に公立高校の推薦入試がある。高校3年生も1月18日(土)19日(日)に行われた大学入試センター試験の自己採点に基づき出願先を決めるとともに、始まりつつある私立大学の一般入試に臨んでいる。
- 今月の校長会では、学校の出口の指導は、6年間あるいは3年間の指導の集大成となるので、子どもたちの「希望と納得」にもとづいた結果をしっかりと残してもらいたい旨、お願いした。

#### ● 燕長善タイム

- 小池中学校の長善タイムが脚光を浴びている。(12月12日には北海道教委義務教育課学力向上推進グループが視察(吉田南小のICT活用授業も)。2月19日の県立教育センター主催教育フォーラムでも実践発表予定。今月の校長会で小池中の取組を5中学校で共通化するようお願いした。

#### ● 平成25年度燕の学校教育・教員研修等報告会(1月15日)

- 標記報告会を実施させていただいた。学校からの参加も77人と昨年より30人近く多くなった。
- 県外視察は3人から報告があった。1人めはさいたま市と東京都日野市の小学校におけ

るユニバーサルデザインを取り入れた学校づくりについて。2人めは大田区の2小学校における学びあう授業づくり、確かな学力向上のための授業改善について。3人めは杉並区と港区の小中学校におけるICTを活用した授業改善について。燕市や勤務校での活用が今後の課題である。

- 次に学力向上事業の事例報告として新潟大学とのパートナーシップ事業の実施校である大関小と吉田中から報告があり、小学校における外国語活動のあり方が確立できた、教員同士の共通理解等により授業改善が図られた、と成果が報告された。
- 最後に小池中学校の燕長善タイムと11月に来燕された富山市立山室中部小学校中井隆司先生のモジュール授業について説明があった。
- 今後も先進事例に学ぶ必要はあるが、取組が着実に進んでいることを実感できた報告会であった。

#### ● 福島の子どもたち

- 1月21日(火)現在、当市の小中学校に通う福島県の子どもは、小学生15人(吉田南3人、燕北8人、燕東2人、燕西1人、吉田1人)、中学生4人(燕北中1人、吉田中3人)。4月と同じ。
- 幼稚園、保育園には7人が通園する(吉田日之出保育園に2人、小高保育園に1人、三方崎保育園に1人、燕北幼稚園に2人、真幼稚園に1人)。9月と同じ。

#### (3) 共催・後援の教育長専決報告について

《山田学校教育課長が1件の継続後援申請について説明》

### 4. 協議題

#### (1) 燕市子ども夢づくり支援事業について

《山田学校教育課長が説明》

燕北小学校：「私たちの学び ホップ・ステップ・ジャンプ～過去に学び、世界を考え、将来を話し合う～「3人の人との出会いから」

審議の結果、全員異議なく承認された。

#### (2) 新規後援申請について

《山田学校教育課長が説明》

審議の結果、全員異議なく承認された。

## 5. 議案

議案第1号 燕市地域に根ざす学校応援団事業地域コーディネーターの委嘱について  
《山田学校教育課長が説明》

### ○委員（黒川 優子）

地域コーディネーターの各校の人数を教えてください。

### ○学校教育課長（山田 公一）

燕東小が3名、燕西小が2名、燕南小が1名、燕北小が3名、小池小が2名、大関・小中川・松長・粟生津・吉田・分水北小がそれぞれ1名、吉田南・吉田北・分水・島上小がそれぞれ2名、燕・小池・吉田・分水中がそれぞれ1名、燕北中が2名となる。

審議の結果、全員異議なく承認された。

## 6. その他

平成25年度 卒業式教育委員会出席について  
《山田学校教育課長が説明》

7. 閉 会 午後2時8分

委員長 齋藤和夫

---

会議録署名委員

---

会議録調整者

---